

7月7日(水曜日)

ドル/円

株価・金利睨みの1日

6日(火)の主な推移

ダウ平均株価

9743.62ドル
(+57.14ドル)

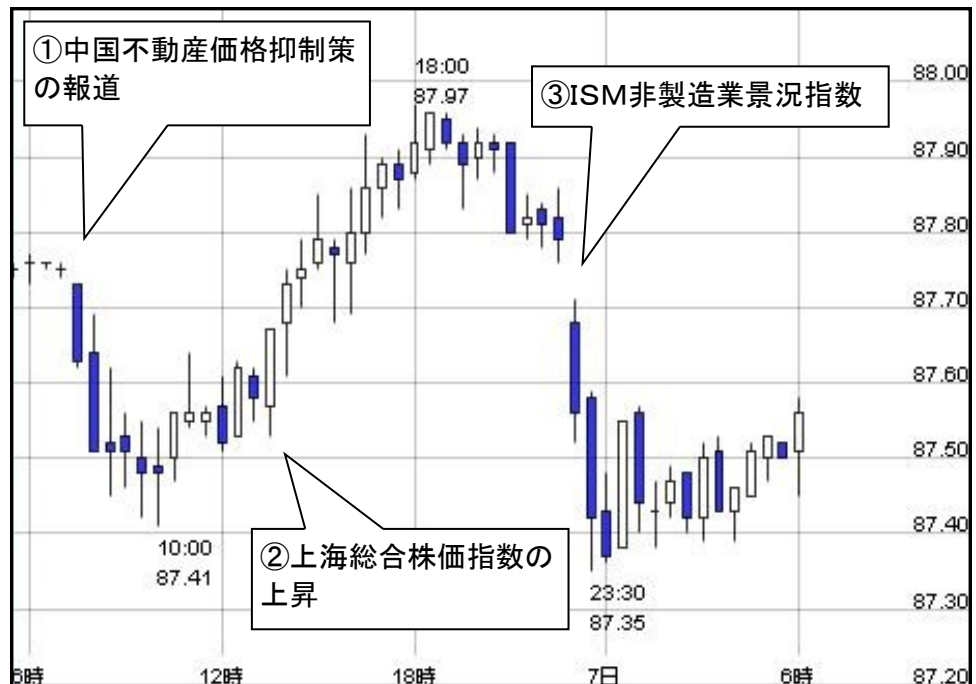
米長期金利 (10年債利回り)

2.9357%
(-0.0431%)

NY原油先物

71.98ドル
(-0.16ドル)

チャート: 30分足 6日(火)朝6時 ~ 7日(水)朝6時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 中国の経済誌「21世紀経済報道」が中国当局は不動産価格の抑制を強化するために2010年7-9月期に新たな対策を導入する計画だと報じたことで、この報道を受けて上海株が下落するのでは、との観測が浮上。資源国通貨に対してを中心に円が上昇すると、ドル/円でも円高が進行した。
- ② 上海総合株価指数が小幅に安く寄り付いたものの、市場の予想に反してすぐに上昇に転じ、前日比プラス圏に盛り返す流れになったことで、円は大幅に売られる展開となった。さらに、序盤の欧州株が上昇すると、ドル/円は18時過ぎには87.97円の高値をつけた。
- ③ 23時に米国で発表された6月ISM非製造業景況指数は53.8と、前月(55.4)および市場予想(55.0)を下回ったことから、米国の景気回復ペースの鈍化が意識され、ドルは全面安。米国株は上げ幅を縮小し、米長期金利が低下する中、ドル/円は87.35円とこの日の安値を付けた。しかしその後はショートカバーなどによりやや値を戻した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 87.00— 88.30円

本日は米国のみならず、その他主要国でも経済イベントに乏しい1日だ。かろうじて日本時間8日4時35分からコチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁の講演が予定されているが、NY株式市場の引けるまで1時間を切る中、どこまで手掛かり材料視されるか微妙なところだ。従って、本日のドル/円は基本的に主要国の株価や米長期金利の流れに追随する主体性のない動きになる見通しである。主要国株や米長期金利が上昇すれば円安・ドル高が進み、株が下落して米長期金利が低下すれば円高・ドル安が進むものと考えられよう。

ただ、明確な材料無しに先週末からのレンジから放れるのは難しいだろう。本日も値幅はかなり限られるとみる。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/7(水)			特になし		

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com